

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
生理学Ⅱ	1年次 後期	必修	講義	1単位（30時間）	赤石 隆夫
授 業 概 要					
看護で重要となる病態生理を理解するために必須となる常態生理について学ぶ。人が日常生活をどのような仕組みで行っているか、自らの生活と関連づけて理解することが求められる。なお、この授業では将来の国家試験を意識したものとなる。					
到 達 目 標					
1. 神経系の働きを説明できる。 2. 感覚の仕組みについて説明できる。 3. 各種筋の特徴、筋収縮について説明できる。 4. 消化と吸収の仕組みを説明できる。 5. 尿生成の仕組みを説明できる。 6. 体温の調節と発熱の仕組みを説明できる。 6. 各種ホルモンの働きについて説明できる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	神経の興奮・情報伝達				赤石 隆夫
2	中枢神経				
3	末梢神経				
4	感覚の仕組み				
5	筋収縮と運動調節				
6	咀嚼と嚥下の仕組み				
7	胃の働きと胃液分泌調節				
8	消化管運動とその調節				
9	消化液分泌とその調節				
10	消化と吸収の仕組み				
11	尿生成の仕組み				
12	尿生成の調節				
13	体温調節と発熱				
14	ホルモンの働き（1）				
15	ホルモンの働き（2）				
学 習 方 法					
解剖学と関連させながら学習を進める。自学自習の工夫を要する。復習は重要である。各部の名称を覚え、その機能も確実に覚えること。病態の理解、看護の方法論での基礎となる。					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼 典子 日本看護協会出版会					
〔参考書〕 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 林正健二 編集 メディカ出版 なるほど、なっとく 解剖生理学 多久和典子、多久和陽著 南山堂					